



昆虫館

**問** 県は、平成28年4月に開校すると発表し、フードクリエイティブ学科やアグリマネジメント学科を創設する。開校に先行し、今年9月に宿泊型の実践オーベルジュを開業する。これは生物多様性の地域戦略に沿った取り組みと理解しており、来訪者や観光客の増加につながる。

**問** 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定には、生物多様性視点の取り組みも位置づけてもらいたい。が、予定と考えは。そこには目標数値も必要と思うが。

**答** 生物多様性の取り組みは、総合戦略の政策に沿ったものと考え。総合戦略に位置づける取り組みであり、重要業務評価指標として位置づけた。

### 市内中学生の重大事態に関するその後

**問** 亡くなった中学生に暴力を振るつたと疑われた生徒が不登校になったと報告を受けた。その後の状況と、調査結果報告後の生徒や保護者への対応は。

**答** 当該生徒は、事件が起こった翌月頃から不登校に陥り、卒業するまで保健室登校を余儀なくされた。高校に進学したが、心の傷は癒えず、家族も含め当時のつらい思いを引きずっている。1年半に及ぶ調査を経て4月23日に調査結果が発表され、当該生徒による暴力行為、いじめはなかったと認定された。当該生徒と保護者に調査結果を報告し、当時、学校・教育委員会が断固とした態度がとれず、結果として守ることができなかったことを謝罪した。

**問** 二次被害を防ぐことができず、悔しい思いがある。本人は、中学校は卒業したが、救えなかった我々にも責任がある。今後、教育委員会としてしっかりフォローし、対応してもらいたい。

**答** 当該生徒を含め、関係したと名前の挙がった生徒及び保護者に対し、調査結果の説明をした。生徒や保護者と絶やせず連絡をとっている。在学中の出来事であったので、今後カウンセラーを含めた相談を続け、ケアに努めたい。

**問** 悲しい出来事を防ぐためには、しっかりとした取り組みが必要である。昨年の3月議会の文教常任委員会において、子どもたち、保護者、教師など、それぞれの声を聞いて、寄り添いながら、その苦しみや悩みの相談に対応できる組織づくりに早急に取り組むようにとの附帯決議があった。今回提出された調査報告書にも、様々な提言がある。今後、どのような取り組みを考えているのか。また、このケアルームには、多くの相談があり成果を上げている。こういった取り組みも生かしながら体制を築き、迅速に対応できる専門的な職能を有する職員の配置等も含め検討してもらいたい。

**答** 附帯決議の内容は重く受けとめている。昨年度から、相談がしやすいよう各中学校に20歳代を中心としたカウ

ンセラーを配置した。相談件数は1年間で約1万件である。今年度から、市の法務専門官（弁護士）に各中学校を巡回してもらおう。これらの取り組みや現況を十分検証し、いじめ防止対策委員会の専門的な意見を聞き、総合教育会議で審議したい。

### 一般質問 樫本 利明 (いづれの案にも賛成しない)

#### 観光交流センターの指定管理の在り方

**問** 観光交流センターの指定管理に係る費用は平成23年度から減少傾向にあったが、27年度予算で増加している理由は。

**答** 観光施策に重点を置いており、その関係で増額した。

**問** 市から観光協会に指定管理料や各種補助金等を含め、1億円以上を拠出していると思うが、シルバー人材センター、社会福祉協議会では作成されている沿革がないのはなぜか。

**答** 平成26年度の市から観光協会への支出は、神武祭の補助金を除いて総額9千万円である。そのうち指定管理料は4,861万円、内訳は、人件費1,446万円、維持管理費3,415万円である。指定管理を除く残りの4,139万円の内訳は、運営補助金であり、大半が職員の人件費とホームページのリニューアル代であり2,520万円である。沿革は確認できていないので、今後検討して作成を指導していく。

**問** 金額的には、シルバー人材センターや社会福祉協議会と比べて手厚い保護があるが、職員の募集や給与体系や福利厚生などの基準はあるか。

**答** 職員の採用は、市の基準に倣って試験等をしており、給与体系も職員と同じである。シルバー人材センター、社会福祉協議会も同様である。

**問** 市から派遣している再任用職員等の場合はどうか。

**答** 再任用、再雇用職員の給与等も同じ扱いであり、市職員と同じである。

**問** プロバーを採用する際の試験についてはどうか。

**答** プロバー職員採用試験は、